統合がん治療による骨転移患者の改善事例報告

メディラム漢方病院
院長

キム・ジホ
Kim Jiho

座長　白川先生
or川上先生

【背景】
骨転移はがん患者における QOL の低下を招く深刻な転帰であり、疼痛、運動障害、日常生活機能の制限を引き起こす。近年、統合医療の一環として漢方や補完療法が注目されている。本報告では、メディラム漢方病院における統合がん治療により、骨転移を有する複数のがん患者において著明な改善が認められた事例を紹介する。

【方法】
本症例集では、前立腺がん・乳がん・肺がん・後腹膜肉腫の骨転移を呈した患者を対象とし、標準治療（抗がん剤、ホルモン療法等）に加え、メディラム独自の統合がん治療（高周波治療、高用量ビタミン C、漆の木抽出物、免疫注射、高圧酸素療法など）を実施した。画像診断（PET/CT、骨シンチ、MRI）を用いて治療前後の変化を評価した。

【結果】
前立腺がん骨転移 3 例では、ベッド上から車椅子、杖歩行を経て自力歩行へと回復し、日常生活復帰を達成。三重陰性乳がんの 1 例では肺および骨転移を有しながらも、PR（部分寛解）から CR（完全寛解）に到達。乳がん骨転移 2 例では画像上での病巣縮小および疼痛消失を確認。肺がん骨転移 4 例ではいずれも疼痛の著明な軽減と画像所見の改善が認められた。さらに、後腹膜肉腫の 1 例では、大学病院での治療効果が乏しく骨転移の進行が確認されたが、約 4 か月の統合治療により完全消失（CR）となった。

【結論】
本症例集は、メディラム漢方病院における統合がん治療が、進行がんに伴う骨転移に対して有効である可能性を示唆する。標準治療と併用した統合的アプローチは、QOL の向上と症状緩和、さらには病態の改善に寄与する治療選択肢となり得る。さらなる前向き臨床研究が望まれる。

略歴

１９９３年　３月	ソウル大学 電気電子制御工学部 入学
１９９６年１２月	ウェブインターナショナル（株） 企画開発チーム
１９９９年　７月	グローバルインターネットビジネス（株） 副社長
２００３年	ソウル大学 電気電子制御工学部 中途退学
２００７年　３月	東義（トンイ）大学校　漢医薬科入学
２０１４年　２月	東義（トンイ）大学校　漢医薬科卒業
２０１４年　６月	シンガル百歳療養病院 入社
２０１５年　３月	シンガル百歳療養病院 病院長
２０２０年　２月	ソウル メディラム漢方病院 病院長（現）
２０２２年　３月	臨床統合医学癌学会 副会長（現）
２０２５年　６月	大韓癌治療病院協議会 副会長（現）

【メモ欄】